akane.

あかね

医療を通じて人と地域を結ぶメディカル情報誌

vol.38
2017 Winter

Close up 介護老人保健施設シェスタ

Topics 地域包括ケア病棟

いま求められている医療の最高レベルを目指すとともに、明日の医療のあり方に機能しよう

医療法人あかね会

はじめに

地域包括ケアシステム

医療法人あかね会　理事長
土谷 晋一郎

地域包括ケアシステムが初めて登場したのは、2005年に公布された改正介護保険法でした。この法律で地域包括ケアシステムとは「高齢者が住み慣れた地域で、安心してその人らしい生活を継続するため、高齢者のニーズや状態の変化に応じて、切れ目なく必要なサービスが提供される体制」と定義されました。この改正で、地域包括支援センターが誕生し、痴呆という用語が認知症に変更されました。2010年公布の改正介護保険法では、「自治体が地域包括ケアシステム推進の義務を担う」と明記され、24時間対応の定期巡回・臨時対応型サービスや複合型サービスが創設されました。

2013年には、「社会保障改革プログラム法」が公布され、「政府は、今後の高齢化の進展に対応して地域包括ケアシステムを構築するため、必要な措置を講ずる。」と明記されました。翌年2014年には、2025年の地域包括ケアシステム構築を目指す「医療介護総合確保推進法」が成立しました。

地域包括ケアシステムは、介護保険が中心ではありますが、診療報酬関係では、2014年度診療報酬改定において、基本方針の中に地域包括ケアシステムという用語が登場し、この改定で地域包括ケア病棟が誕生しました。地域包括ケアシステムは、2014年度診療報酬改定基本方針では、末尾に、将来を見据えた課題として記されているだけでしたが、2016年度診療報酬改定基本方針では、重点課題となりました。

日本国の高齢化の進展があまりに急激なので、やむを得ぬこととは思いますが、地域包括ケアシステムは、今から12年前、2005年に産声をあげたばかりなのに、矢継ぎ早に、法改正および新しい法律に突き動かされて、2025年には、成人どころか働き盛りの一人前の大人にならなければならなくなっています。この地域包括ケアシステムの中で、老人保健施設は、地域全体の在宅医療・介護の要となる役割を期待されています。あかね会老人保健施設シェスタでは、今年（2017年）6月、施設長として、土肥雪彦広島大学名誉教授をお迎えし、さらなる地域貢献に励んでおります。土谷総合病院では、今年8月より、4南病棟を地域包括ケア病棟に衣替えし、望月高明地域包括ケア病棟医長を中心に、質の高い地域包括ケア病棟を目指しております。地域包括ケアシステムのリーダーは、終身まで患者さんを見守る医師であると言われております。先生方が構築される地域包括ケアシステムの中に、老人保健施設シェスタ・土谷総合病院地域包括ケア病棟・あかね会在宅事業部等をご利用いただけるよう、さらなる質の向上に取り組む所存でございます。

Close up
介護老人保健施設シェスタ

介護老人保健施設シェスタ

― 明日に向けて思うこと ―

施設長 土肥雪彦

本年６月、介護老人保健施設シェスタ施設長を拝受着任し、ヒト型ロボット「ペッパー」に迎えられ、驚歎しました。コミカルな動作と豊富な会話能力、通所しておられるご高齢のご婦人方に大人気、私まで癒される心地でした。

コンピューター技術の進展によって2045年、早ければ2030年ごろには、人工知能（AI）が人類の知能を越える技術的特異点（シンギュラリティ）に到達し世界的大変革がおこるとか。医療の世界でも検査、診断、内科的療法はコンピューターが主役で人間は脇役、いずれ外科も手術ロボットやナノ手術ロボットなどが中心になりそうなどと、期待と同時に危惧する声も上がっています。

でもペッパーの朗らかで優しい声を聞いていると、AIと多様な機能を持つ安価な介護ロボットの出現も夢ではない、そしてAIとロボット技術も医療・介護の現場でうまく活用できる日々が来るようにも思えました。

介護老人保健施設シェスタ（以後老健シェスタ）は、介護保険法が成立した1997年の3月31日、阿品土谷病院の敷地内に開設されました。介護保険施行は2000年ですから、高齢者時代のニーズにいち早く対応し始動したことになります。

「介護を受ける高齢者は疾病をお持ちの方が多く、いずれ病院での治療も必須だから、病院の1部門として介護病棟を作り必要に応じて医療と介護に切り替え対応していくシステムが1番良い。介護保険法などは複雑で無用の長物だろう」高齢者の外科診療体験から、私自身はそう考えていました。

介護と医療を明確に分け対処していく時代に入り、施設も診療報酬も別形態となり、医療と介護の連携・協力関係がうまく築けないという声も上っていました。でも国の対応は遅く、やっと2014年から医療と介護の連携の強化を改めて取り上げ、地域包括ケアシステム構築の中で推進しているようです。

当施設は、当初から隣接する阿品土谷病院、在宅事業部、最先端医療機能を有する土谷総合病院との十全な支援協力体制が出来上がっており、切れ目のない良好な医療と介護連携のもとに今日まで活動してきました。本年８月からあかね会土谷総合病院に地域包括ケア病棟が始動しています。近隣では佐伯地区医師会、大竹地区医師会、JA広島総合病院からも支援を頂いていますから、今や「病院・診療所・介護施設・在宅事業部・地区医師会」の素晴らしい協力体制が出来あがり医療と介護連携は万全です。

そのためか通常の施設では管理が難しい認知症透析の方の紹介も多く、阿品土谷病院と協力して老健シェスタも可能な限りお引き受けし、認知症透析に必要な介護と支援をおこなっております。大変ですが、スタッフは真摯に誇りを持って頑張っています。

今年、老健シェスタは20周年を迎えました。振り返って今思うとき、土谷太郎前理事長、土谷晋一郎理事長の先見性と遂行力、それを継承・維持してきたシェスタ歴代のスタッフの方々のご努力には、本当に頭が下がります。

現在、高齢者で要介護の方は600万人を越え、認知症高齢者の方も約500万人といわれており、どちらも大急増しています。2010年の調査時、日本の透析患者23.4万人のうち2.3万人（9.9%）が認知症合併、今は３万人を超えており、日本透析医学会も対応に苦慮しています。

厚労省は地域包括ケアシステムの他に認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)を策定し、認知症の病状に応じた適切な医療・介護の提供、認知症の予防、診断、治療、リハビリテーション、介護モデルの開発・研究など多くの課題をあげ取り組んでいます。

難題山積の介護保険制度下ではありますが、それを遵守しながら老健シェスタは頑張っております。幸い多くの優れた人材を擁しておりますので、日常業務の傍ら、明日に向けて高い視点から更なる研鑽を積んで頂いています。

医療、看護、リハビリテーション、食養などに関する最新の知見を学び活用するのは当然です。その他にも気功、ヨガ、経絡・鍼灸、漢方、ハーブやアロマ、音楽療法など代替医療法からも、認知症の改善・悪化予防、心身機能の維持向上や癒しに繋がる技法も使えそうなものは導入活用し、介護が必要な高齢者、認知症の方たちの自立を真摯にサポートし地域貢献して参りたいと考えております。

高度人工知能を有するペッパーや介護ロボットの参入も大歓迎、介護の現場で仲良くしっかり働いてもらいます。

これからもスタッフ一同、ペッパー共々精進頑張って参りますので、ご支援ご指導のほど何卒宜しくお願い致します。

付記　歴代施設長のお名前を挙げ深甚なる謝意を表します。
石田敬幸 施設長（1997.4~2001.3）
江崎治夫 施設長（2001.4~2003.3）
戸邊昭衛 施設長（2003.4~2017.5）

あふれる**笑顔** ふれあう**心**
シェスタは家族との**絆**を大切にします。

介護老人保健施設シェスタは、1997年3月31日に開設し今年で20年を迎えました。

当施設は一般療養棟60床・認知症専門棟40床を備え、対岸には『安芸の宮島』を一望できる小高い丘の上に位置し、阿品土谷病院と併設しています。

「シェスタ」という名前は、スペイン語で「お昼寝」を意味しており、ご利用される方々にゆっくりくつろいでいただきたいという願いを込めています。

ご利用者様へは医師による医学的管理の下、医療サービスやリハビリテーションを行っています。食事・入浴などの介護サービスは各個人の状態や目標に合わせた専門スタッフが寄り添い、自立をサポートし家庭復帰を目指しています。また家庭に復帰が困難な方は希望される退所先を支援させて頂いています。

介護老人保健施設シェスタは地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）をとっており、高齢期を迎えても住み慣れた地域での生活や、地域に根ざした施設サービス提供を支援しています。

また、医療法人あかね会の病院・各事業部と連携し、在宅から入退所までの切れ目ないサービスの提供をしています。

一般療養棟

一般療養棟の入所定員は60名です。入所は介護保険の要介護1～5の認定を受けた方がご利用頂けます。短期入所療養介護（ショートステイ）は、上記の認定に加え、要支援1・2の認定を受けた方もご利用頂けます。

入所時から、ご家族と共に、生活の意向に沿ったケアプランを各サービス担当者が医学的管理の下、提供しています。ケアプランは、入所者の状態とご家族の意向により、定期・随時サービス担当者会議を行い、可能であれば入所者・ご家族にも参加して頂いております。

ケアプランに沿った介護サービスを行い、その中で少しでもご自分が出来ることを継続して頂けるように心掛けています。

リハビリテーション以外にも毎日のレクリエーション（習字・生け花・折り紙・ちぎり絵等）を実施することで、生活機能の改善・向上を図っています。また、四季折々の行事をレクリエーションに取り入れたり、誕生日会や音楽療法等のボランティアも好評頂いております。

体調が整われ、生活機能も改善され在宅での生活復帰をご希望される方にはその都度、ご家庭での生活に安心して復帰頂けるように、各サービス担当者が支援いたします。

また、在宅復帰が困難な入所者の方もその都度、療養環境の整備を行うと共に、ご希望される退所先を支援いたします。

天気の良い日は宮島を一望できるテラスでひなたぼっこも。

認知症専門棟

認知症専門棟は、入所定員が40名（短期入所療養介護を含む）です。入所者はアルツハイマー型認知症やレビィ小体型認知症など、様々な症状の要介護認定を受けられた方がいらっしゃいます。閉鎖棟ということもあり、認知症の周辺症状にも対応しており、入所者の安全安楽を一番に考え、看護・介護サービスを提供しています。

日々のケアを行う看護師、介護福祉士のみではなく、施設長、介護支援専門員、リハビリスタッフ、栄養士、支援相談員の多職種で情報を共有しながら、その方に合った支援、サービス提供を行っています。阿品土谷病院や在宅事業部などとの連携を図り、現在は、認知症透析患者の受け入れも行っています。

在宅復帰支援について、シェスタとしての役割を重視していますが、入所者の高齢化に伴い、認知症状の悪化やADL低下により、復帰困難な方も多く入所が長期化し、施設が生活の場となっているのも現状です。

施設生活を少しでも楽しく送って頂けるように、毎日の日課としてラジオ体操や歌体操を取り入れています。日々のレクリエーションやリハビリ体操の他にも、音楽療法をはじめとする、地域ボランティアの受け入れを積極的に行い、日常生活の活性化を図っています。

現在、地域の施設からの認知症研修や、看護大学の老年看護学実習を受け入れており、入所者の方々と関わりを持つ事で、入所者だけでなくスタッフにも良い刺激となり、日々の生活、業務の活性化に繋がっています。

職員のサポートのもと、生け花や切り絵など、
アクティビティによる作品制作にも取り組んでおられます。

通所リハビリテーション

通所リハビリテーション（以下、デイケア）は、現在105名の利用者が登録されており、1日40名定員です。施設長、看護師、介護福祉士、相談員、リハビリスタッフ、マッサージ師、運転手の専門スタッフで業務にあたっています。2016年8月から介護ロボットの『ペッパー』くんも仲間入りし、愛らしい声や話し方で利用者を癒してくれます。

利用者の1日のスケジュールは、お迎え・バイタルチェック・入浴・アクテイビティ・トレーナー体操・昼食・お昼寝・カラオケ・レクリエーション・おやつ・帰りの会・お送りとなっています。

入浴は、保清やリラックスの他、皮膚状態の観察や状態改善に向けて薬の塗布など行います。

アクティビティは脳トレプリントや塗り絵や刺し子などの文化活動です。その他、ボランティアに来て頂き押し絵、ちぎり絵、絵手紙などの作品づくりも喜ばれて、書道展の出品も行っています。音楽療法、ハーモニカ、紙芝居など地域のボランティアに来て頂くこともあります。

トレーナー体操は、リハビリスタッフによる体操です。ほとんどの利用者が参加されています。体と頭を使い楽しみながら体操をされています。リハビリ室では個別リハビリや自主訓練、物理療法をされます。リハビリ室以外でも廊下で歩行訓練に取り組まれる方もいらっしゃいます。

レクリエーションはゲームとゲートボールの２か所に分かれて行っており、利用者の希望で選んで頂きます。帰りの会では、なぞなぞや文字クイズやしりとりなど担当スタッフが問題を出します。お誕生日会も利用者の誕生日に合わせて行います。

毎月行事レクリエーションとして、四季折々のレクリエーションを実施し、職員一丸となりアイデアを出し合い盛り上げています。劇・演奏・応援合戦など練習を積むものにも挑戦しました。
利用者の「楽しかったよ～」「今日も来て良かった」が何よりの励みです。

食事は、通常メニューの他、季節の行事食も提供されます。子どもの日やひな祭りには、ちらし寿し、土用の丑の日はうなぎのかば焼き、クリスマスにはチキン等と行事にちなんだメニューや旬の食材が並びとても人気があります。また、食事に添えて絵手紙や折り紙があり、より一層季節感を感じる事ができます。行事食の日は、利用者同士の会話もはずみ、笑顔があふれ、賑やかな食事となります。

送迎では、安全第一に、全車にドライブレコーダー・シートベルトを設置し、運転手と介護スタッフの2名で送迎を行っています。

デイケアを利用される目的は、リハビリ、入浴、他者との交流など様々です。利用者の価値観や生活スタイルを理解し尊重しながら接するよう心がけ、ご家族、介護支援専門員、ヘルパーなど利用者に関わる方たちと連携しながら業務にあたっています。

平成27年4月の介護保険改定より、要介護１～５の方を対象にリハビリテーションマネジメントを行っています。個別リハビリだけでなく、リハビリの時間以外での自主訓練メニューの作成、ご自宅でのホームプログラムの提案、ケアマネージャーからの依頼や必要に応じてご自宅へ訪問し、在宅生活での福祉用具の提案や介護方法のアドバイス等を行っています。

定期的なリハビリテーション会議では、利用者、ご家族を含め、施設長、リハビリスタッフ、相談員、ケアマネージャーが参加し、通所リハビリテーション計画書の説明と現在のリハビリの目標や内容をお話しし、目標を共有しています。

土肥施設長が利用者に直接セルフケアの方法を指導して、実践された利用者から「便秘が改善した」「寝つきが良くなった」「足が楽になった」など喜びの声を頂いております。

脳の活性化や意欲維持・回復を目的としたアクティビティ。
それぞれのペースで楽しみながら完成を目指します。

ペッパーくんが
お出迎え。
通所の方々と
挨拶を交わします。

トレーナー体操。楽しみながら体力・機能維持に
取り組みます。

Topics
地域包括ケア病棟

地域包括ケア病棟をお気軽にご利用下さい

地域包括ケア病棟 医長 望月 高明

2017年8月1日に土谷総合病院に地域包括ケア病棟が44床で開設されました。その運営は、高齢患者さんのお世話を厭わない気心の優しいナースを中心に行われ、担当職員一同は、皆様に安心してご利用頂き、満足して退院して頂けることを念頭に日々努力を続けています。それでは、『この病棟はどのような病棟で、一般病棟とはどこが異なるのか？』という利用される方々の不安と疑問に思いを馳せながら、ご説明致します。

この病棟への入院には、4つのルートがあります。

A　一般病棟からの転棟

一般病棟での急性期治療が一段落したものの、まだ自宅や介護施設に帰るには不安があり、退院後の生活に自信が持てない時にこの病棟に移ることです。具体的には、急性心筋梗塞や狭心症に対するカテーテル治療、胃癌などの消化器手術、骨折などに対しての整形外科手術を受けられた術後患者さんや、重度の心不全や重症肺炎に対しての濃厚な内科的手術を受けられた患者さんが対象となります。

通常、一般病棟の患者さんは、担当医師の目でみて、その経過に心配がなくなったと判断された時点で、退院可能の旨をご本人とご家族の方に伝えられます。しかしながら、患者さんの実感としては、まだ体力的に回復していないし、足の筋力も弱っており、トイレ歩行に不安がある。加えて、自宅での手すり設置などの療養環境の整備にも少々時間がかかるなど、退院への不安を強く訴えられることがあります。この様な場合は、もう少し入院を続け、歩行リハビリとともに試験外出・外泊を行って、退院後の生活に自信を持ちたいと希望されます。この様な患者さんに移って頂くところが、地域包括ケア病棟です。ここでは、筋力強化などのリハビリを含む、在宅復帰に向けての様々な支援をゆとりを持って受けて頂けます。

しかしながら、この病棟には患者さんが希望すれば、『いつまでも入院が続けられるか？』というと、そうではありません。この病棟には、入院期間60日という保険医療上の制限があります。基本的には、この期間内に努力して在宅復帰可能な状態までに回復を目指すということです。勿論この期間内に退院可能な状態に回復できなくても、強制退院はありません。また、病状が悪化した場合は、一般病棟に戻ることも可能です。

B　他病院からの転院

広島大学病院、県立広島病院、広島市民病院などの公的病院には、地域包括ケア病棟がありません。これらの病院では、保険医療上、平均在院数が短く制限されており、往々にして早期退院を求められることがあります。これらの病院で退院を求められた際、退院後の生活にまだ自信を持っていない患者さんは、是非担当医師へ地域包括ケア病棟へ移ることを相談してみて下さい。

C　病気発症時等

患者さん自身にもともとの病気の再発や肺炎などの新しい病気が発症し、かかりつけ医師やご家族の方に入院が必要と判断された場合は、たとえ深夜であっても遠慮なく病院に連絡して下さい。患者さんは『まだそんなにしんどくないので、いま入院を依頼しては申し訳ない』などと思われる必要はありません。こじれる前の治療開始が肝要です。『一般病棟、地域包括ケア病棟どちらへの入院をお願いすればいいのか？』との心配もいりません。来院された時点の診察で、病院側で選択させて頂きます。一般的には、病状が重篤な時は一般病棟、内服薬の追加や簡単な点滴のみで問題ない場合は、地域包括ケア病棟となります。

D　自宅療養中のご家族の都合

自宅療養中の患者さんに状態変化はないものの、ご家族の都合で自宅療養が続けられない場合も、この病棟の適応となります。ご家族の都合とは、具体的には介護をされるご家族が病気になった、久しぶりに旅行に出かることになったなどの場合です。この様な場合でもご連絡頂ければ、喜んで患者さんのお世話をさせて頂きます。

私にも近所で一人暮らしをしている母親がおり、介護ヘルパーさんのお世話になっています。私ども夫婦も1日に1回は訪れて様子をみています。今までは私どもが旅行に出かける時は、東京にいる妹に来てもらっていました。今後は、この病棟の利用も検討対象にしたいと考えています。

最後にもう一度言わせて下さい。地域包括ケア病棟を担当するナースは高齢患者さんのお世話を喜んで引き受ける優しいスタッフばかりです。どうぞ安心して、お気軽にこの病棟をご利用下さい。

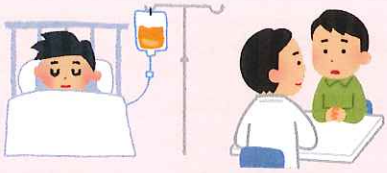
『地域包括ケア病棟』では、もう少し長く入院による治療を続け、
安心して在宅復帰していただけるよう、
医師、看護師、理学療法士、医療ソーシャルワーカーが支援いたします。

対象となる患者様

一般病棟で急性期の治療が終了しても、すぐにご自宅へ退院されることに不安がある患者様。
地域包括ケア病棟のない他病院から早期退院を求められた場合の転院。
療養中の方で軽い症状などにより入院加療を必要とする患者様。短期滞在の手術入院、糖尿病教育入院の患者様。
家庭の事情などによる一時滞在など。

※地域包括ケア病棟へ入院、転棟して頂く場合は、主治医が判断し、患者様とご家族に相談させて頂きます。

A　一般病棟
B　他病院



C　病気発症時等
●軽い症状による入院
●短期滞在の手術入院
●糖尿病教育入院

D　自宅療養中のご家族の都合
●介護者の数日の外出など
家庭の事情

地域包括ケア病棟

●おうちで暮らす気持ちの準備と必要な心身機能の回復
●在宅復帰に向けて必要な診療・看護・リハビリ・ご相談等

●加療
●糖尿病教育

●一時滞在

退院（在宅・施設）

※入院期間は状態に応じて異なりますが、地域包括ケア病棟に入棟後、最長60日となっています。
※主治医が集中的な治療を必要と判断した場合は、一般病棟へ転棟していただくこともあります。

ご不明な点は、お気軽にお問い合わせください。

土谷総合病院

◆連絡先

平日8:30～17:30（月～金曜日）
担　　当：地域医療連携室
直通電話：082-243-9222

夜間・休日（平日17:30以降、土日祝）
担 当 者：夜間当直看護師長
代表電話：082-243-9191

地域連携医紹介

地域の医療機関との緊密な連携と機能分担を推進し、医療技術の向上を図ります。

さだもりレディースクリニック 診療科目／婦人科 院長 貞森（さだもり） 理子（りこ）

さだもりレディースクリニックは、医師スタッフ全て女性で構成された産婦人科クリニックです。

女性特有疾患（子宮や卵巣の疾患、月経異常、更年期や思春期の異常など）を中心に、多くの婦人科疾患に対応可能です。アクセスに関しても、本通り電停や広島バスセンターから近いため、遠方からの患者さんも多数受診して頂いています。

また、土谷総合病院は当院からも近く、手術必要疾患や救急疾患、困った症例などの受け入れで連携しており、迅速な対応を行って頂いています。

女性の皆さん、恥ずかしがらずに当院の門をたたいてみてください。

診療時間／10:00～13:00　15:00～17:30
（水曜土曜は10:00～12:00、土曜日は完全予約制）
休診日／水曜午後、土曜午後、日祝日

住所／〒730-0051　広島市中区大手町2丁目7-2　ウエノヤビル大手町4階
TEL／082-242-1132　FAX／082-242-1134
病院ホームページ／http://www.sadalc.cc

医療法人あかね会

■土谷総合病院

〒730-8655 広島市中区中島町3番30号
TEL：082-243-9191（代）

■阿品土谷病院

〒738-0054 広島県廿日市市阿品四丁目51番1号
TEL：0829-36-5050（代）

■大町土谷クリニック

〒731-0124 広島市安佐南区大町東二丁目8番35号
TEL：082-877-5588（代）

■中島土谷クリニック

〒730-0811 広島市中区中島町6番1号
TEL：082-542-7272（代）

■介護老人保健施設シェスタ

〒738-0054 広島県廿日市市阿品四丁目51番1号
TEL：0829-36-2080（代）

■在宅事業部（介護サービス部門）

土谷訪問看護ステーション

光　南 TEL：082-544-2789　西広島 TEL：082-507-0855
大　町 TEL：082-831-6651　出　汐 TEL：082-250-1577
佐　伯 TEL：082-925-0771

土谷ヘルパーステーション

光　南 TEL：082-545-0311　西広島 TEL：082-507-0877
大　町 TEL：082-831-6654　出　汐 TEL：082-250-5080
佐　伯 TEL：082-925-0770　戸　坂 TEL：082-502-5205
可　部 TEL：082-819-2250　矢　野 TEL：082-820-4825
阿　品 TEL：0829-20-3585

土谷居宅介護支援事業所

光　南 TEL：082-504-3202　西広島 TEL：082-507-0866
大　町 TEL：082-831-6653　出　汐 TEL：082-250-3730
佐　伯 TEL：082-925-1550　戸　坂 TEL：082-502-5215
矢　野 TEL：082-820-4835　阿　品 TEL：0829-20-3721

土谷デイサービスセンター

光　南 TEL：082-544-2885　大　町 TEL：082-831-6600

スタッフ募集

心豊かな医療を提供し、楽しく時間を共有しながらスキルアップに繋げるために、あかね会では、やる気のある方、経験豊富な方の募集を随時行っています。詳しくはホームページをご覧ください。

土谷総合病院　検索

医療法人あかね会 本部事務局
〒730-0811 広島市中区中島町4番11号
TEL：082-245-9274
http://www.tsuchiya-hp.jp

2017年12月発行